様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０１１８６

研究課題名（和文）エコミュージアムによる都市農村交流と地域環境管理の接合に関する実践的研究

研究課題名（英文）Practical research on regional environmental management and revitalization based on the idea of Ecomuseum

研究代表者
淺野　敏久（ASANO, Toshihisa）

広島大学・人間社会科学研究科（総）・教授

研究者番号：００２８４１２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は，エコミュージアムを用いて，地域の自然・文化環境の保全を，域内の人的交流により進める仕組みを考案することである。広島県東広島市を研究対象地域とした。地域資源の把握，地域の担い手組織の現状と課題，活動への協力意向を調べ，モデルツアー案を策定した。次に，ワークショップやモニターツアーを実施し，手法の評価・内容の評価・参加者の評価などの情報を収集した。
　成果として，東広島エコミュージアムにおけるモデルツアー案を複数提案することができ，特にオオサンショウウオ観察と絡めた農村観光プログラムほかを実際に行えるようにした。ただし，これらは試行錯誤をしながら改良を重ねることが必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は，エコミュージアム研究における，実際の現場を使った実践的な調査であったことに特徴がある。エコミュージアム活動を具体的にどう進めるかについての研究は，日本国内ではあまり行われてこなかったので，実践経験からの知見や参加者評価などの情報を得て記録を残したことに意味がある。また，社会的には，具体的なエコミュージアム・ツアーが，試行錯誤段階とはいえ，毎年実施される流れを作ったことは，地域振興的な意味で意義があり，さらに博物館が行う「学びツアー」として，自然保護意識の啓発や市民の保護活動参加者を増やすことに繋がりつつある点も社会的意義をもつと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to devise a method to promote the conservation of the local natural and cultural environment by means of human interaction within the area, using the ecomuseum. Higashihiroshima City, Hiroshima Prefecture, was selected as the study area. We grasped the local resources, investigated the current situation and problems of the local resident groups, investigated the willingness to cooperate with the activities, and formulated model tour plans. Next, we conducted workshops and monitor tours, and collected information such as method evaluation, content evaluation, and participant evaluation.
As a result, we were able to propose several model tour plans for the Higashihiroshima ecomuseum. In particular, a rural tourism program involving observation of the Japanese giant salamander was put into practical use. However, these need to be improved through trial and error.

研究分野：人文地理学

キーワード：エコミュージアム　都市農村交流　環境管理　エコツーリズム　東広島市

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究の学術的背景については，2 つの切り口から説明できる。1 つは，エコミュージアム研究への地理学的アプローチであり，もう 1 つは，都市住民による里地里山環境の保全についての実践的研究である。

エコミュージアムは 1990 年代に日本に実質的に紹介され，各地でそれを参照した地域づくりが試みられてきた。その意味では，必ずしも新しい取り組みではない。しかし，長年の活動の結果，各地で成功・失敗が重ねられている。調査研究も進み，日本エコミュージアム研究会の学会誌をみても，地域資源の価値を決めるのは誰か，学術性をいかに担保するのか，地域の多様な主体をいかに結びつけるか，地域の自然・文化遺産を保全するための利用とは何か，持続可能な観光とエコミュージアムはどう結びつくのか，災害からの復興にエコミュージアムがどう貢献するか，地域の活動組織の継続性や世代交代をいかに図るか，エコミュージアムにおける大学や地域博物館の役割は何か，海外のエコミュージアムと日本との違いは何か，ジオパーク・エコパーク等との違いは何か，エコミュージアムの反省をジオパーク等にどう活かせるのかなど，多様な論点が示されている。これらはエコミュージアム論と総称できるが，地理学における研究関心とも重なる面は大きく，上記の問いは，文化地理学（地域の価値の創出と主体），観光地理学（サステナブルツーリズムと地域），地域計画，自然環境管理などとも共通の問いとなりうる。本研究では，これらの論点の中でも特に，地域の多様な主体をいかに結びつけるか，自然保護につながる利用とはいかなるものか，大学博物館がエコミュージアム活動において果たす役割は何か，に主眼をおく。

第 2 の切り口である，都市住民による里地里山環境の保全についての実践的研究については，宮内泰介編（2013）『なぜ環境保全はうまくいかないのか』や高田知紀（2014）『自然再生と社会的合意形成』，富田涼都（2014）『自然再生の環境倫理』など，地域の自然・資源をめぐる多様な主体間の合意形成に焦点を当てる研究が重ねられている。地理学では地域環境をめぐる社会的合意形成に焦点を当てる研究は多くないが，地域運営組織の普及に尽力する作野広和のように現場に深く関わる研究者は，農山村問題に関連してみれば，各地で活躍している。本研究は，農山村の地域づくりのような幅広い対象ではなく，地域の資源管理（自然遺産・文化遺産）に焦点を絞り，農村地域における合意形成と，実際の資源管理活動への都市住民の参加を促す仕組みづくりを試みるものである。

本研究の学術的「問い」をまとめると，地域の自然遺産・文化遺産を保全するためにエコミュージアムの枠組みや方法論を活かせるのか，特に，地域資源をめぐる多様な主体間の合意形成にエコミュージアムは有効に機能するのか，そして，自然保護につながる利用を，都市住民の参加を促しながら，実現する具体的な方法として何が考えられるか，があげられる。

２．研究の目的

本研究の目的は，これまでの活動実績があり，調査活動・地域活動を進めてきた広島県東広島市を対象地域として，地域の自然遺産・文化遺産を，エコミュージアムの理念や方法論を用いつつ，保全・管理する具体的な仕組みづくりに必要な情報を，社会実験などを通じて得ることである。明らかにすることは，第 1 に，地域の自然遺産・文化遺産の保全・管理・利用をめぐる社会的合意形成をどう図るのか，その際の課題は何か，であり，第 2 に，具体的な活動を導入・展開するとして，どうすれば都市住民が主体的・積極的に参加するようにできるのか，そこに必要な仕掛けや組織は何か，である。

農村部の自然遺産・文化遺産の保全・利用に，エコミュージアムの理念や方法論を活用する点が，そもそも独自な点である。また，最終的に具体的な方策を，社会実験などによる情報収集により考案するというアプローチも地理学研究においては独自性が高いと思われる。かつ，具体的な方策をローカル・ビジネスの提案につなげたいという意向をもっており，創造性のあるアウトプットを強く志向している。

３．研究の方法

対象とする東広島市は，開発が進み人口が増加している市中央部と人口が減少し高齢化が進む周辺農村部との間に明確なコントラストが認められる。一方，広島大学総合博物館は，開館以来 12 年間にキャンパスまるごと博物館をコンセプトとした活動を続けており，東広島エコミュージアムと称する，いくつかの取り組みをはじめている。東広島エコミュージアムは市周辺部を主な舞台としており，国内外から流入する都市部の住民（多くの学生・留学生を含む）を人口減・高齢化が進行する農村部により密に関わるようにしたいという問題意識をもっている。本研究では，実際に存在する住民間交流や地域環境の保全・継承・教育・活用に関わる組織による人集めやネットワーク活動の現状を把握し，エコミュージアム活動への市民参加について具体的に検討する。具体的な組織としては，大学博物館のほか，「西条・山と水の環境機構」という里山保全活動組織，「エコネットひがしひろしま」という環境市民団体のネットワーク組織，「東広島ボランティアガイドの会」，「ひとむすび」という消費者と生産者をつなぐことを目的とした NPO

団体などがある。
　次に，具体的な「エコミュージアム・ツアー」をモデルツアーとして作り，その導入を仕掛けつつ，地域の側の社会的合意形成の問題点や課題をあぶり出すとともに，企画自体の内容の改善や実現可能性に関わる情報（参加者への聞き取りや一般市民へのニーズ調査等による）を収集する。エコミュージアムのサイトの１つとして，市北部の豊栄地区を想定し，その地区でのオオサンショウウオの保護に関わる活動をツアーの訪問地と考える。
　以上をふまえて，本研究では以下を行うこととした。
1）研究動向のレビューおよび先進事例調査
a．研究レビュー：地域の多様な主体をいかに結びつけるか，自然保護につながる利用とはいかなるものか，大学博物館がエコミュージアム活動において果たす役割は何か，などについての国内外の議論の動向を探る。
b．先進事例調査：大学が地域資源の保全や活用に関わるユニークな例や，特定の自然遺産（野生生物）や文化遺産を核として保全と地域づくりを進めている例について情報を収集する。
2）エコミュージアムのエリア内の自然遺産・文化遺産の現況調査
a.当面の調査対象地である豊栄地区：豊栄地区におけるシーズ調査，および豪雨災害による地域資源への被災状況調査を行う。
b.広域展開のための他地区：調査への地元の対応状況に応じて 3 地区程度を抽出し，対象地区におけるシーズ調査，地域資源に関わる利害関係者の洗い出しを行う。
3）送り出し側（市街地側）の担い手組織に関する調査：都市住民と周辺地域をつなぐ際に，送り出し側として期待できる市民団体等について，活動実態や都市農村交流に関わる現状認識，企画への協力意向などを調べる。
4）社会実験としての「エコミュージアム・ツアー」の実施：上記の団体関係者などとともに，実施するプログラムを訪問地の状況に応じて考案する。年 3 回・3 地域程度の「エコミュージアム・ツアー」をモニターツアーとして行い，都市側参加者および受け入れ地域関係者から，聞き取り調査等により情報を収集する。
5）市民ニーズ調査と調査期間修了後を視野に入れた成果発信
a．一般市民のニーズ調査：企画のイメージを固め，参加意向等に関するインターネットアンケート調査を広島県民を対象として実施する。
b．公開講演会：研究成果や活動成果の報告をかねた公開講演会（あるいはシンポジウム）を開催し，研究期間修了後の事業展開を仕掛けるためのキックオフの場とする。

４．研究成果
　本研究は，ワークショップやモニターツアーなど，一般市民や学生とともに行うもので，活動を通じた情報収集が必須であった。しかし，この調査期間のほとんどが COVID-19 の感染拡大防止に留意しなければならない状況にあり，モニターツアーを実施することなどが許されない事態であった。そのため，当初の計画とは変わった形で，社会的に可能な範囲での調査を行うことを余儀なくされた。そのような中で，毎年度次のような調査を行った。
（令和元年度）
　フィールド内の地域遺産の現況調査と，利害関係者への聞き取り調査を重点的に行った。それを踏まえて，5 つのツアー案を考案した。それぞれのツアーのテーマは，「野生生物と農村地域のくらし」，「生活の中の水の景」，「湾と流域のつながり」，「地域におけるバイオマス等再生可能資源・エネルギー」，「歴史・文化遺産の保全と活用」である。
　なお，この年度は，COVID-19 の影響を受け，当初計画にあげた「社会実験としてのエコミュージアム・ツアーの実施」は見送り，2 年目に予定していた「市民ニーズ調査」を前倒しで実施した。その結果は，淺野敏久ほか（2020）東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの需要（広島大学総合博物館研究報告，12，101-108）で報告した。
（令和 2 年度）
　この年度について，当初は，知床や佐渡，丹波篠山，出水などの先進地事例調査を行うとともに，令和元年度に実施したフィールド内の地域遺産の現況調査と，利害関係者への聞き取り調査の結果を踏まえて，モニターツアーを実施しようと計画していた。しかし，新型コロナ感染拡大が懸念される中，先進地事例調査や東広島エコミュージアムでのモニターツアーはほぼ実施できなかった。
　厳しい制約がある中で，東広島エリアでのオオサンショウウオ調査を継続的に行ったほか，岡山県真庭市で取り組まれているバイオマス・ツアーの調査，日本エコミュージアム研究会のオンライン・フォーラムを通じた専門研究者等からの情報収集，前年度に作成したエコミュージアム・ツアーのプロモーションビデオを用いた広島大学学生へのオンラインでのアンケート調査などを行った。また，前年度の調査報告書の作成やその際に制作した東広島エコミュージアムマップの印刷，東広島エコミュージアムを紹介するプロモーションビデオの作成など，モニターツアーを含む本格調査を行うための準備を進めた。
（令和 3 年度）
　この年度も，COVID-19 の影響で延期していた先進地事例調査や一般市民に呼びかけたモニターツアーを行うことが出来なかった。しかし，東広島エコミュージアムでのモニターツアーにつ

いては，前年度と違い，感染拡大の落ち着いている時期を見計らって，市民ではなく，地域的に規制のかかっていない大学生を対象として 2 回実施できた。

厳しい制約がある中で，東広島エリアでのオオサンショウウオ調査を継続的に行ったほか，希望する学生を公募したエコミュージアム・モニターツアーを実施した。その他に，エコミュージアム・ツアーのプロモーションビデオを用いた広島大学学生へのアンケート調査，デジタルコンテンツのエコミュージアムでの活用に関する調査や実践などを行った。しかし，3 回予定していたモニターツアーのうち 1 回分を実施できなかったので，研究期間を 1 年延長し，残るモニターツアー1 回分を令和 4 年度に実施することとした。

（令和 4 年度）

前年度にやり残した（ツアーを実施することが規制されていた時期があって，前年度に予定した回数をこなせなかった）モニターツアーを実施したほか，本科研費以外の研究経費を用いてモニターツアーを年間 4 回実施した。これは本科研費研究で得られたノウハウや人脈などを生かして実践活動につなげてこられた結果でもある。それらのモニターツアーで収集した情報も研究に生かしていくことになった。

（モニターツアーから得られた知見）

本研究期間中の知見をもとに 2022 年度には『エコミュージアムと大学博物館』（淺野敏久編著）を刊行した。その中でエコミュージアム・ツアーに関して，次のように提案した。エコミュージアム・ツアーでは，普通の観光ツアーとは違うスタンスを取るべきであり，「学び」と「地域遺産の保全」に重きをおくべきである。そのための留意点を 4 つある。

第 1 に，地域遺産の保存と活用を図ることが前提である。エコミュージアムの定義にもあるように，地域遺産の「保存」と「活用」はエコミュージアムの重要な目的である。エコミュージアム活動の一環としてツアーを検討するのであるから，当然のこととして，地域遺産の「保存」を意識すべきで，自然にしても，文化財にしても，「守ることにつながる利用」を想定することが望まれる。

第 2 に，ツアーは教育観光であるべきである。地域遺産の活用の方向としては，地域の遺産や地域について学ぶこと，その学びを通じて，地域の担い手を育むことを重視したい。観光の動機はさまざまであるが，「学び」観光をエコミュージアムにおいて志向すべき観光の方針とする。

第 3 に，明確で責任を持った機関・団体が企画・運営するツアーであるべきである。地域遺産の多くは，現時点で観光利用されているわけではないものが多い。そのような状況で，域外からの不特定多数の来訪者が各現場を訪れるようにすることは，余計なトラブルを生む恐れがある。このため，訪問が地域に受け入れられるようになるまで，各地で一定の信頼を培ってきた団体や機関がツアーを企画・運営をすることが望ましい。この場合，営利の観光ツアーより，学習ツアーの方が受け入れ各地の理解を得やすいと考えられる。

第 4 に，段階的な対応をとりつつも地域に効果をもたらすものを育ていくことを意識すべきである。エコミュージアム・ツアーは，はじめは総合博物館主催の現地見学会や，博物館の知見を，既存の広域見学を実施している地域団体（都市農村交流 NPO やボランティアガイド組織）に利用してもらうような形態を想定する。のちに訪問が地域に受け入れられ，また，地域の側に受け入れ体制が整ってきたら，商業的なツアーの導入に展開することが望まれる。博物館が主催するエコミュージアム・ツアーでは経済的波及効果を見込めないし，人員的にも予算的にも，博物館がこれを観光事業に拡張していくことは困難である。のちに地域の人たちや事業者がフォローするようになることを期待しながらの，リード役，あるいは仕掛けとして，エコミュージアム・ツアーは位置づけられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 淺野敏久・森保文・前田恭伸・犬塚裕雅	４．巻 34-2
２．論文標題 環境活動への市民参加を促すための情報提供―瀬戸内海流域住民を対象としたアンケート調査から	５．発行年 2021年
３．雑誌名 水資源・環境研究	６．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6012/jwei.34.20	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 淺野敏久	４．巻 13
２．論文標題 東広島エコミュージアム見学ツアーに対する大学生の需要―2020年調査と2021年調査の比較	５．発行年 2021年
３．雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	６．最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川島尚宗・黒岩健介・石丸恵利子・塩路恒生・池田誠慈・清水則雄・淺野敏久	４．巻 27
２．論文標題 広島大学総合博物館のキャンパスまるごと博物館・地域まるごと博物館構想におけるデジタルコンテンツの作成	５．発行年 2022年
３．雑誌名 エコミュージアム研究	６．最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊地直樹・山崎由貴子・大谷竜・斉藤清一	４．巻 5
２．論文標題 ジオパークにおけるガイドの活動実態および意識に関する調査	５．発行年 2022年
３．雑誌名 地域資源とジオパーク	６．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊地直樹・西村武司・岸岡智也・伊藤浩二・北村健二・山下英輝・森宏一郎	4．巻 18(1)
2．論文標題 能登里山里海マイスター育成プログラムによる移住促進に関する調査報告	5．発行年 2021年
3．雑誌名 滋賀大学環境総合研究センター研究年報	6．最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kanbayashi C, Naito J, & Shimizu N	4．巻 52(4)
2．論文標題 ONYCHODACTYLUS JAPONICUS (Japanese clawed salamander)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 POLYMELIA. Herpetological Review	6．最初と最後の頁 818-819
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 南葉錬志郎・清水雄貴・谷聖太郎・清水則雄	4．巻 13
2．論文標題 東広島市におけるコガタノゲンゴロウ Cybister tripunctatus lateralis (Fabricius, 1798)の初記録と来遊背景の一考察	5．発行年 2021年
3．雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	6．最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/52007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 清水則雄	4．巻 128
2．論文標題 地域全体を博物館に！大学博物館が推進する地域貢献活動の展開～オオサンショウウオの保全活動をコアとしたエコミュージアムを通して～	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Musee（ミュゼ）	6．最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 淺野敏久	4．巻 25
2．論文標題 エコミュージアム活動への学生参加について―学園都市・東広島市での観察から―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 エコミュージアム研究	6．最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 淺野敏久・森保文・前田恭伸・犬塚裕雅	4．巻 33
2．論文標題 瀬戸内海流域住民の環境保全と市民活動についての意識	5．発行年 2020年
3．雑誌名 水資源・環境研究	6．最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6012/jwei.33.7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 前田恭伸・森保文・淺野敏久・犬塚裕雅	4．巻 25
2．論文標題 市民活動のためのボランティア募集とICT利用についての実態調査	5．発行年 2021年
3．雑誌名 エコミュージアム研究	6．最初と最後の頁 80-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 淺野敏久・清水則雄・佐藤大規・菊地直樹	4．巻 12
2．論文標題 東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの需要	5．発行年 2020年
3．雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	6．最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50636	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 池田 誠慈・宗像 優生・佐藤 賢・三浦 昂・橋詰 宰・友田 浄・若林 なつき・桑原 一司・清水 則雄・大川 博志	4．巻 12
2．論文標題 ダム上流の湿地を流れる小河川に生息するオオサンショウウオ個体群－小型個体群と野外における幼生の成長に関する考察－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊地直樹・豊田光世	4．巻 9
2．論文標題 兵庫県豊岡市「コウノトリ育む農法」参加農家を対象としたアンケート報告	5．発行年 2021年
3．雑誌名 野生復帰	6．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 淺野敏久	4．巻 24
2．論文標題 賀茂台地エコミュージアムの可能性と課題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 エコミュージアム研究	6．最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 毛慧敏・淺野敏久	4．巻 11
2．論文標題 東広島市豊栄町におけるオオサンショウウオ保護活動への住民参加の可能性と課題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	6．最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大谷竜・菊地直樹	4．巻 4
2．論文標題 日本ジオパーク委員会事務局からみた日本のジオパークの発展過程：2005年から2014年まで	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ジオパークと地域資源	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊地直樹	4．巻 42
2．論文標題 ワークショップ「シマフクロウとの共存に向けて」報告	5．発行年 2020年
3．雑誌名 知床博物館研究報告	6．最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 清水則雄	4．巻 24
2．論文標題 賀茂台地エコミュージアムとオオサンショウウオの保護活動	5．発行年 2019年
3．雑誌名 エコミュージアム研究	6．最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　4件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 淺野敏久
2．発表標題 ラムサール条約に登録されるとはどういうことか―湿地の保護とワイズユースと人づくり
3．学会等名 第11回日本ジオパークネットワーク全国大会（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 淺野敏久
２．発表標題 環境団体の活動へのコロナ禍の影響―広島県内の環境市民団体の事例から
３．学会等名 日本リスク学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 淺野敏久・清水則雄・菊地直樹
２．発表標題 エコミュージアムにおけるリアルとデジタルー広島大学総合博物館の試みから
３．学会等名 人文地理学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 グリーン化する社会の環境社会学ーグリーンインフラにどう向き合うか
３．学会等名 環境社会学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 川島尚宗・黒島健介・石丸恵利子・塩路恒生・池田誠慈・清水則雄・淺野敏久
２．発表標題 広島大学総合博物館のキャンパスまるごと博物館・地域まるごと博物館構想におけるデジタルコンテンツの作成
３．学会等名 日本エコミュージアム研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 淺野敏久
２．発表標題 「エコミュージアムを知りたい・語りたい」の企画・実施
３．学会等名 日本エコミュージアム研究会オンライン・フォーラム
４．発表年 2020年

１．発表者名 淺野敏久
２．発表標題 市民による環境運動は転機を迎えているのか
３．学会等名 日本地理学会秋季大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 淺野敏久
２．発表標題 東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの試みと需要
３．学会等名 地理科学学会秋季学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 清水則雄
２．発表標題 里山のたからものオオサンショウウオを守ること.オオサンショウウオの宿視察
３．学会等名 令和2年広島県郷土史研究協議会南部地区豊栄大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 ASANO T., SHIMIZU N., SATO T., FUJINO T. and ISHIMARU E.
２．発表標題 Conservation and utilization of local heritage by Kamo plateau eco-museum, Higashi-Hiroshima city in Japan
３．学会等名 25th International council of museums (ICOM)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 淺野敏久
２．発表標題 エコミュージアム活動への学生参加についての試論
３．学会等名 日本エコミュージアム研究会研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 環境活動の順応的プロセスデザインに向けて：環境活動の「見える化」ツールの試み
３．学会等名 第59回環境社会学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 方法としてのレジデント型研究：その課題と可能性
３．学会等名 第16回質的心理学会大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 KIKUCHI Naoki
２．発表標題 Reintroduction of Oriental White Storks into the Wild and Co-creation of Local Values
３．学会等名 JAPAN-KOREA RURAL PLANNING SEMINAR 2019（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 物語による生物と文化の関係性の資源化プロセス
３．学会等名 「野生生物と社会」学会第25回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 清水則雄・土岡健太・桑原一司,
２．発表標題 日本豪雨災害の東広島市椋梨川オオサンショウウオ個体群への影響
３．学会等名 生物系(動物・植物・生態)三学会中国四国支部大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 清水則雄・藤田 慧・佐藤大規・大塚 攻・淺野敏久,
２．発表標題 賀茂台地エコミュージアムの推進--廃校プールを活用したオオサンショウウオ保護公開施設の設置
３．学会等名 大学博物館等協議会2019年度大会・第14回日本博物科学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計9件

1．著者名 関 慎太郎 ・AZ Relief ・桑原 一司（清水則雄分担執筆）	4．発行年 2021年
2．出版社 緑書房	5．総ページ数 160
3．書名 日本のいきものビジュアルガイド はっけん！ オオサンショウウオ	

1．著者名 山口富美夫・中坪孝之・坪田博美・塩路恒生・清水則雄ほか	4．発行年 2022年
2．出版社 NextPublishing	5．総ページ数 136
3．書名 東広島キャンパスの自然観察	

1．著者名 公益財団法人広島市みどり生きもの協会（清水則雄分担執筆）	4．発行年 2021年
2．出版社 広島市安佐動物公園	5．総ページ数 175
3．書名 広島市安佐動物公園50周年記念オオサンショウウオを知る守るそして共に	

1．著者名 岩国市教育委員会（分担執筆：清水則雄）	4．発行年 2020年
2．出版社 岩国市教育委員会	5．総ページ数 126
3．書名 岩国市オオサンショウウオ調査報告書	

１．著者名 淺野敏久・清水則雄・佐藤大規	４．発行年 2020年
２．出版社 広島大学総合博物館	５．総ページ数 40
３．書名 エコミュージアム構想に基づく周遊観光ツアーに関する研究	

１．著者名 グリーンインフラ研究会編（分担執筆：菊地直樹）	４．発行年 2020年
２．出版社 日経BP	５．総ページ数 519
３．書名 実践版！　グリーンインフラ	

１．著者名 菊地直樹	４．発行年 2020年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 213
３．書名 はじめて学ぶ生物多様性（分担執筆「生物文化多様性を実践するジオパーク」）	

１．著者名 淺野敏久	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 859
３．書名 現代地政学事典（分担執筆「環境保全運動」「ラムサール条約」）	

１．著者名 清水則雄・山﨑大海	４．発行年 2019年
２．出版社 NextPublishing	５．総ページ数 126
３．書名 オオサンショウウオと暮らすための50のこと	

〔産業財産権〕

〔その他〕

広島大学デジタルミュージアム：地域まるごと博物館：オオサンショウウオの宿
https://www.youtube.com/watch?v=APqJVhzUa4A&t=58s
広島大学デジタルミュージアム：地域まるごと博物館：保護活動
https://www.youtube.com/watch?v=2sJc4bwObTE&t=44s
広島大学デジタルミュージアム：キャンパスまるごと博物館：発見の小径
https://www.youtube.com/watch?v=AQycw4iNutY&t=15s
東広島市立図書館デジタル・アーカイブ「のん太の学び場　オオサンショウウオ」
https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Home/3421205100/topg/study/page_3-2/page_0.html
広島大学総合博物館「エコミュージアム」
https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~humuseum/ecomuseum.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	菊地　直樹 (KIKUCHI Naoki) (60326296)	金沢大学・地域政策研究センター・准教授 (13301)	
研究分担者	清水　則雄 (SHIMIZU Norio) (70437614)	広島大学・総合博物館・准教授 (15401)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関